

# 無縁社会

「人間は社会的動物である」

と、アリストテレスは言った。本来、人は一人では生きていけない。

我々がテーマとして掲げた「無縁社会」とは、血縁、地縁、そして会社との縁である社縁が急速に失われることによって、人と人との関係が希薄になった現代の日本社会を指している。NHKが2010年に制作・放送したドキュメンタリーで登場した造語だ。

日本では、高齢化や未婚化を背景に、単身世帯が増加している。(人口問題研究所の推計によれば、単身世帯の数は)2005年の1,446万世帯から、2030年には1,824万世帯にまで膨れ上がるという。これは、一般世帯全体の3割以上を占めることになる。

一方で、誰にも気づかれずに死んでいく「孤独死」のニュースも絶えない。孤独死の恐怖は、高齢者だけでなく、一人で暮らす若い世代をも脅かしている。不況のなか、仕事をなくして派遣や日雇いの仕事を探す人、路上暮らしを強いられる人も増えているからだ。

このように縁の薄まった社会で、どのように自分を保てばいいのか、どのようにつながりをつくれればいいのか——。我々はそのヒントを探した。